

地域の若者の役割議論 県青協など 三原村で「夜学会」



地域での若者の役割を考えた「にぎわい夜学会」(三原村宮ノ川の村中央公民館)

↑みては「などの意見が出ていた。」

進行役を務めた田中教授は「高齢者を支え

る地域づくりではなく、地域づくりを高齢者が支えることで若者との共生につながる」と指摘。議論を傍聴した田野正利村長は「若い人が村のことを真剣に話し合う姿に感動し

た」と話していた。この日、参加者はソフトボールで交流し、夜の懇親会も実施。県青年団協議会は、今後も各地で同様の会を開くという。

(新妻亮太)

【宿毛】若者が地域で果たす役割を考える座談会「にぎわい夜学会」がこのほど、幡多郡三原村で開かれた。村内外の青年団員や高知県立大学の学生らが、伝統文化の継承や村のPR方法などについて意見を交わした。

地域を活気づけるきっかけにと、県青年団協議会(会長＝森岡千晴・土佐市青年団長)などが初開催。団員や、2015年から地域活動

で村民と交流している県大生が考案した村の健康体操の普及や、子どもと関わる活動など五つのテーマに分かれて議論。伝統の太刀踊りの継承には若い担い手が必要だが、「外の人が入ることを嫌がる人もいる」といった課題が挙がり、「文書や映像で残すことから始めて

26日の座談会では、